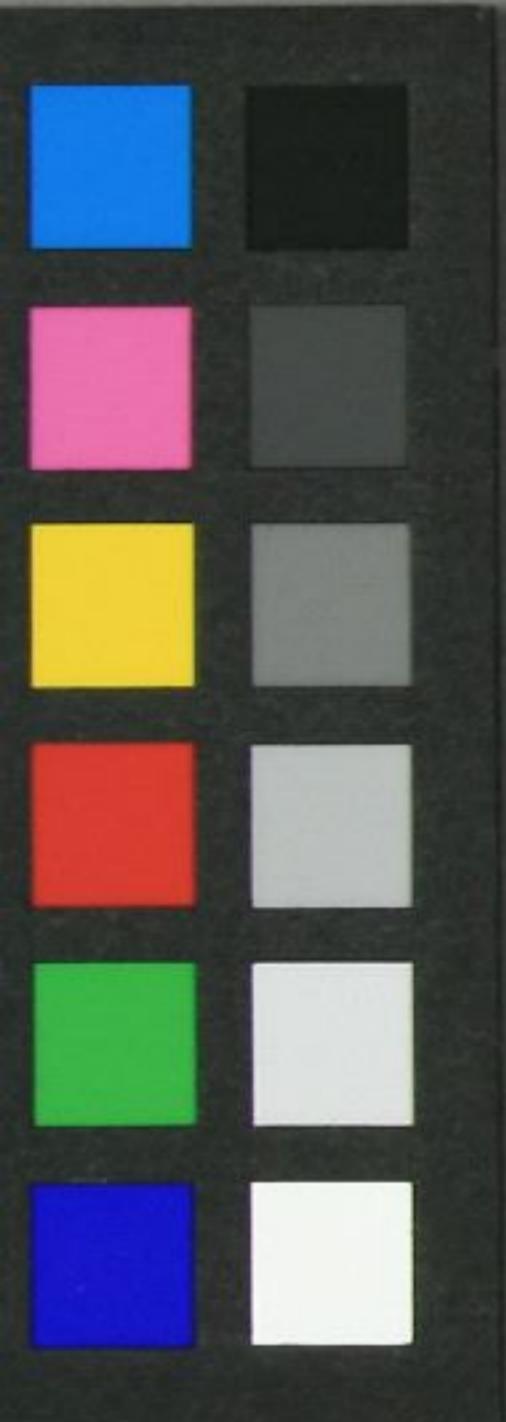


35

30

25

20



文庫六
1003
11

十返全一丸

幕島膝栗毛



心四

嚴鳴
泰詣 滕栗毛卷上

東武

十返全一丸著

名す。ゆふ四國七鷗とひよへ。毛毛下津井
の間。すてづきも。怪岩寺石。ども。古松煙を含。
海。京日小輝。まそ。船中の壯観。すも。くと。ば
か。山。諸。一。東都の。鎧。宴。ほひ。布。まよ。八
千。身。の。同。志。の。人。乃。も。も。ス。キ。ア。セ。モ。モ。モ
か。便。至。ア。キ。ト。う。ど。思。惟。ト。テ。ひ。そ。や。藝。州。

崇島よりままでんとて。便船の打手す。順風帆
あげて。丸龜の港と出たりし。七湾の佳景。一望の
うちえありて。浦よ名画ももうござれ狀態す。
云々
所謂七湾は。よほ須弥山が我が島にあひて。石を運びて。所
立端ど真法耳。今が半アハ年。被余の手をまつて。そぞう
あり立ち
見る。見る
ト。ト。ト。

相手の後あ沖あ馬をも

かづくと見えぬ七乃家

ひてその内ノの未ミの刻ノもよ。風風ノと漣ノも
まづ

め。一かづけんべ。下條おとこはうとう。
まよひあらわちへ

おどりあそ。毛蟲よりは古事記の事。是まで七里は古事記の事。松の木

あくまど。因は死んで御
私ども。村山をも

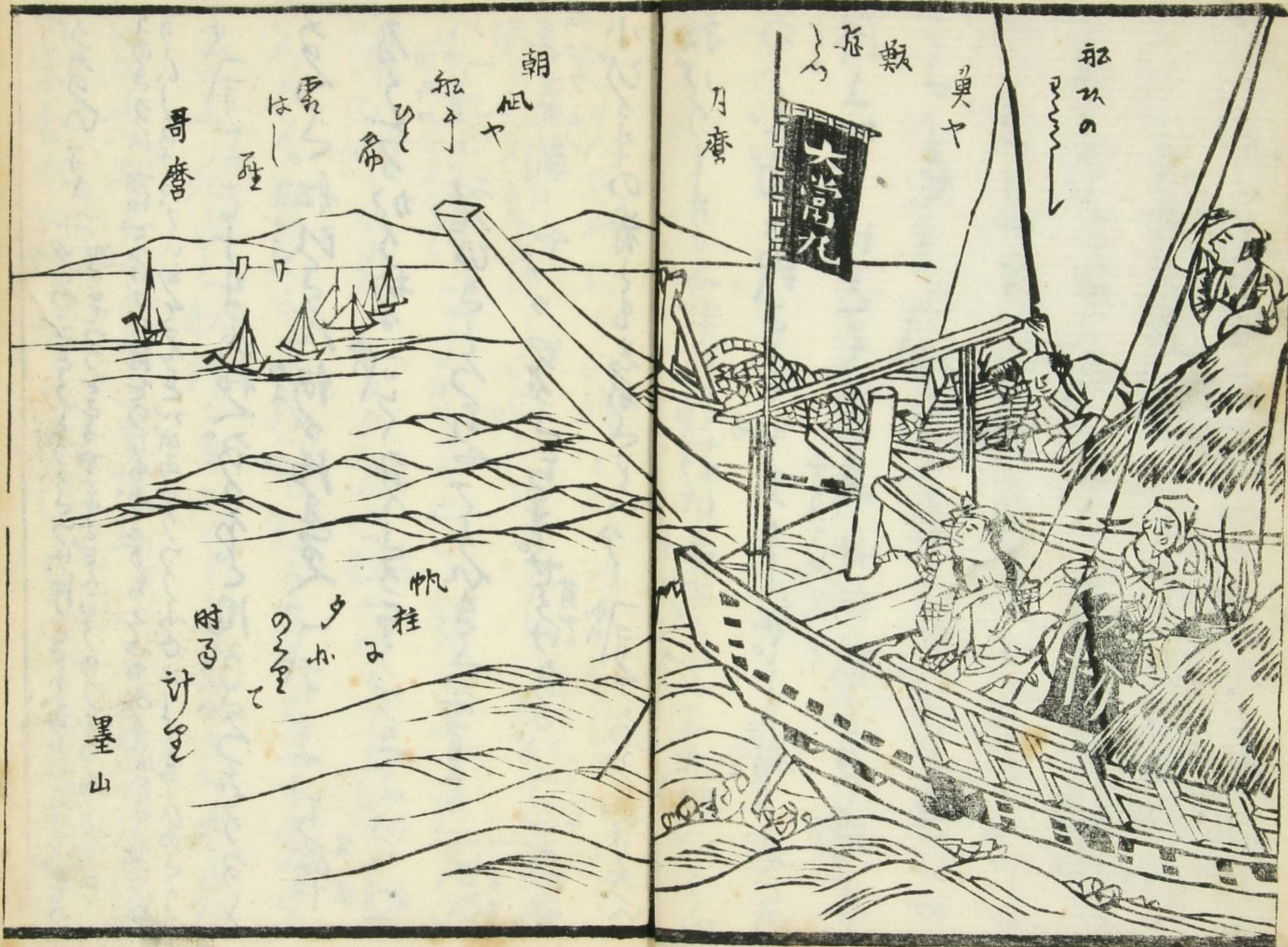
傍よがりけとて不の离舟。何艘ともも清き

もあらむ。おまへ酒のまきをかづけ

アラシヤマの風景
アラシヤマの風景

まくはりのまゝに、
まくはりのまゝに、
まくはりのまゝに、

生の赤ニテシテモ極めてカリナセ色の三
望がめどあめどよ止ざ。さうまへかまへまへ



がうの子ヤトツリてきくとへつせはうせふあどどひ。うの
かがむてつるをまくをまよせんぢうのう令のんぐく。おひ
ユあきぬひく森とつせきせぬとのゆもあ。かちうゆめあり。さきともちわ
りいじうざら。まいおじてえとばひおもつすがひひかう
やヨリヤアモドリまく種。あひやど因がさうわうき
せんどう
ミ
つ
せん

まへ。船せん改かえん何なにがゆきまへ。一いそり。ああはや
黒くろ駆く

カスコ

ハサク
エイ もんじゆとくらやアトハモニキ
カリヤア
カミラニキテ

私ども。そろちらの掉といませ。彼かれでもお

火をあとかく
ナニかゆのアホ
モクシ江戸の
あき
の
も
が

西の國で見ゆる事に也
さうぞあくまでも訪ねてござりやう。

ヨリやアあだざと。船^{せん}び^どまうじ^じてあるうち。尼^あさな

のりよへみとくとあき生れ出トシル。そひ候のすまほ
タ。タマズル。タマズル。タマズル。タマズル。

私隠がりよかやア。ハアきくよ。ば女中のうちで。ひと
のの被まふえとすまへとトのがあるとア。うるうるコリヤア
大せんの余いのちみやかられねよよつて。ひもうトド靈トド
でもうそ。あのさあよく見てやうるがつひと
と。何ま女めのうども、それひとりうそ。往きゆアリや
や。大きが。あでもりアゲたまきり。今キおれがゆつあ
ときうごけて見せよ。おうなごゆび。左シタまく。
ヨリヤ駿マのをとがり。きてやう。おれを誰だれとせ
ゆぐさう子このもへぬきび。うそがわらも。アヘモ
使シテと。まうくうやつと。白眼ホシど。その被まがと
と逃ハシりあつて。それから。ねがまく。ナ下シ奇キめ
ドヤアあるめア。ソリヤあアビドヤ。ノウ おまくま入ア
ドヤゆりやせまへチト少ア。ナおひアが神カミでもねアでアね
ケミど。その時アま蒲洋カモガをとトて居ルかとル。ま
イヤがまうア。アアかとルのア。アア。阿アとルとルあアが
モセア。アアトルもあ。ヨリヤ 鰻アマど。トル中アマの被アマをうア。

そせんだふ。トあうきづみのまことと
大きな紙のとどける。そんたぶ痴が大き
ござりやどく「アヤもやひ。そぞよにさりくす
りちめん。齧アサヒどもの歯のあとが不げく。や
さうづい。ホニ。りちく膏葉カモヤ代なるもやく。
さうすきをひくもぐひくやアホく。
腰アノはすでもうあらぐの下アシをくつま
移へとれりよ。それドヤアタのびくられほへど
木のよろがふ。あらかくうひふ。ヤトハム
トがくやく。そのがく。我のまくまく。らの
かくがく。もとあひて。おえうとうする。
青妙アキヤウがよまく。アラシアラシどものほまく
煙艸アガマ。どもうちつりこまよ。ざうとくづくの
子コ。アラシアラシ。アリ。もか。とくへ福アラシ
福アラシ。げよにかとくへ福アラシ
かく毒アラシ。魚アラシ。もあく。もく。づ
わす西北風の吹きまく。観と解アラシ

めがけむる日和そと
ゆき

ありも才子。次構白石を打もだ。才と才
さう後國の園廟の傍よりうかる。ト
朱井より
すで九里余

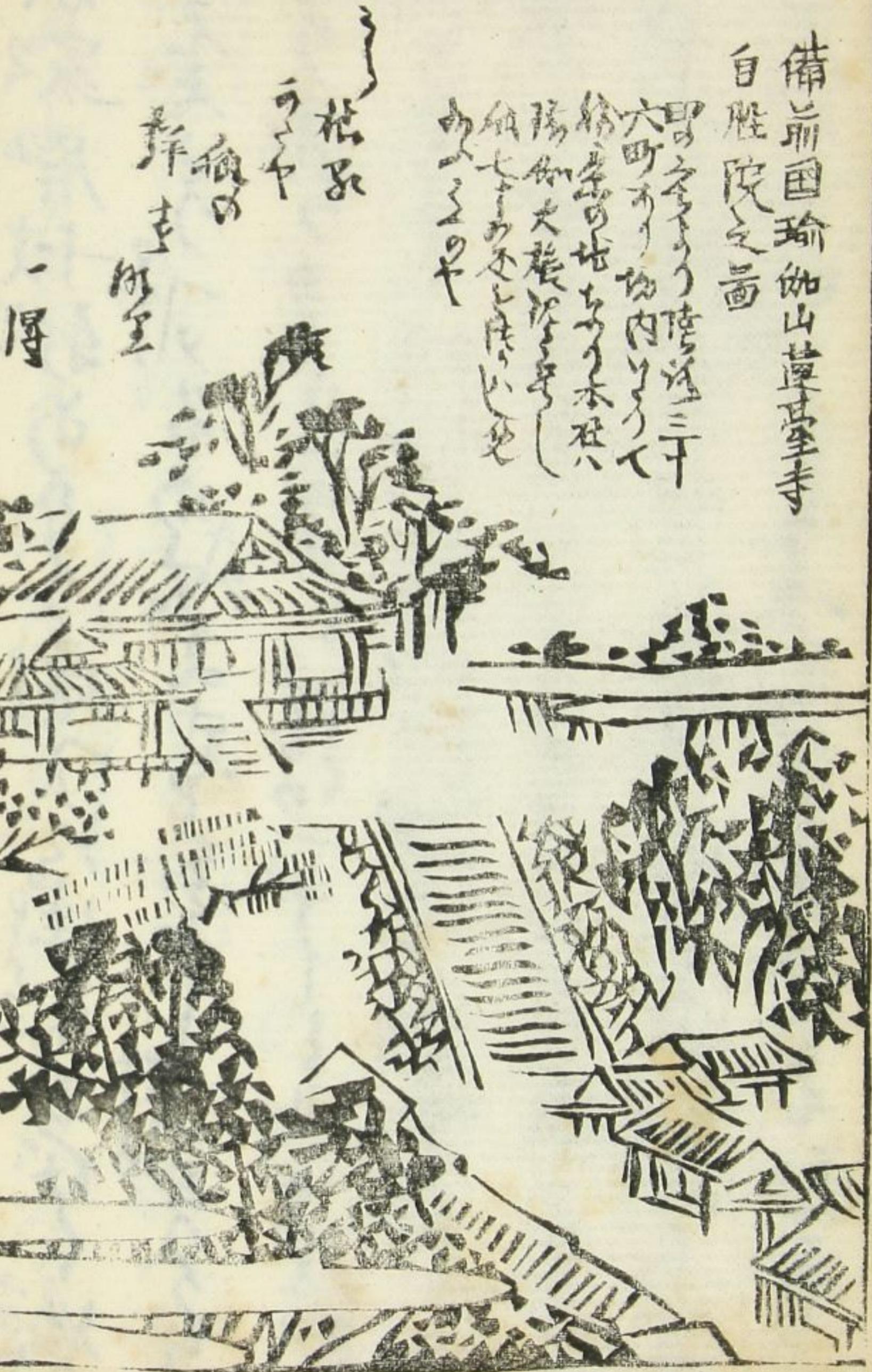
山中より又まちどきく
駒島の唐子とば壁の
お家尼千利あ半人走り
せむ。住木もびく眼
え見えぬ。ソリヤか
キリよめどもく駒島の
うらうらも

アラジナ ヨウソロウ
タマキ キイミガ
アラジナ

湯屋の事すナニハラキリヤセ
アリヤ戸湯ゆアホヘアヅツモイ
トスギミタトヨウス。アモセアモイ
アモナナ

備前國瑜伽山草堂寺
自性院之圖

印定す。下は陸道三千
六町あり。内ノリテ
給寺をせら。木社
陽和大権門を有し
金七十二石とほい。也
ゆふ。之のヤ



コウ湯舟のどうさんもつるがつる。湯舟の用事
やませ。水きりのハシベのゆふト。手をえ。行
うゆふむふの運。ヨリヤ。とくづらもつるの。
ひき戸あくとあるケニ。がくどわとだくと
ちくと。やませ。ラットト。こう。こう。とく
寝す。湯舟を。アラカイテ。アラカイテ
す。また。人デヤト。け。ひづび。かわいとの。す
ま。條。ら。や。せ。紙端。り。ま。墨。条。ま。

あらませぬ。ようううやアノト。けよみをきる。居
てあきる。アヤア、このびてくめ。こんぢく乃。残ちせ
りんのとぞや。ざうめぞこと酒の残く。おん
きづり。ひきのひきのうれせくを。げゑく
めがコナニ。あいとく。こちろてたゞじものふく
と紙吹くある。テヤ。あくが酒どくひもつて。あざ
へあく。ドヤ。據の四。まち。タタツ。アキ
ハモデヤ。うちが殊もかりくもく。まぬもう。うん
ととあさる。打。まく。ト。ス。人。ま。を。あ。げ。う。そ
ひ。され。ま。ぐ。ら。ま。と。こ。き。アヤ。レ。く。ち。る。な。だ。た。の。が。く。も
かく。せ。ア。ハ。と。ま。う。ざ。も。ヤ。ア。イ。く。あ。せ。ふ。ト。
かく。う。る。よ。み。す。の。び。く。ふ。ま。ゆ。の。中。ア。ハ
コレ。く。せ。ん。ど。う。さん。
こう。く。か。づ。ハ。ひ。が。ま。ま。む。お。湯。が。ゆ。く。
風。を。ひ。ま。く。う。ご。ア。よ。あ。ま。く。つ。け。ア。あ。げ。そ。う。あ。く
ア。イ。ヤ。あ。ん。ま。ぎ。よ。た。せ。い。わ。も。ナ。ニ。うち。又。あ。ニ。カ。く。

のかくよ裏町うらまちどさうとく 拾女よめのあきとみゆ
おきべ。女めどもめどもごうちよりごうちよりびくらびくらて あのみ
あくろあくろさんせ。おのそびそびくさんせ。トとめくわへと
ココりやくつまぶたまぶたくらくらくともともせせ ササ ヨヨ
ひみさんせ。おくろくろほんののよやあうう、あとう
みさんせせ、トと大おおせせいとくとくわうむむはは はは あくく
ままハハああうう「ああここがが福ふく」ちちううひひううああ
くくううササああいでいでみさんせせトとちちつつれれててくくのの中なかみみく
くくややくくああよよめめききううめめくくああよよくく
風かよよくくからからうう。おおききよよくく。ままくくよよくく。ごごと
ううででんんののごご。ああんんああよよんんののごご。おおだだままくくよよくく
トトくくづづくく。づづくく。ききののうう。ききややくくががくくののアアとと
りりととああくくててみみくくねね。ヤヤシシヤヤ「ハハ」ハままああくくるる、
絶絶つかつかおりおりくく。時ときよよざざくくををぞぞぐぐくくまま
ぬぬああくくくくさんさんせせ「ココウウ女め中なか。ばばくくちちくく何なんととくく



「まんぢうやとひふテニ。毫か、來くか
まきんせト、やむる男をもてて、あらゆる
つれ事、足矣。」
「コレハよし。お出でやまへば、坊さま
が、萬不盈座寺の観音堂。建立さ
が、家をまくらへ。まがよよみだ。年がどもが
やまと、デヤ「アイ奇進よつけとか。」
秘へて藏りてある。ハムトサ
十砂洞をぐるせう。」
「コレハ即ち太年でござりや
あ、どづく。トヨ野引一
ふあく。圓空すめすめりづく。
おまこまくはじよさんごも聖まくやまと。」
「おまさんごと、聖まくやまと。」
「うんでもりひきもく出、りせくコシキえんせ。

トといひつてやまとすよで。とよもとつれてらる。うぢぎれ
田舎めだまんじも。かねりきらうのまくやうす。をま
くとさうりてすまう。おりあくへりてきまく。」
ちううららのままではまの女がまく。まくとまく。
「そく妻郎
野や。こどりよわそんきびよざうをうづく
きんのゆうでや。うしろがりよとせがとよまくま
と。わてもとのまく。おそれ下のもじうりもく
すみまつてども。とてケニ。りよちうづき男ノヤの。
意。やのとよくすく。げみ。かくとく。コ、ナ
せんさんめがト。りくとそりくとくとく。かうてのくくや。
カイハリキハハアモジウチ。アキタ。のまく
アモジウチ。アキタ。ガノのきくら。ミモロシのゆくまく
ときととき。とそ。エイ。お。まく。コ、ナ
セイ。まく。コ、ナ
カブ。ともみへり。うぬ。ごのた。かがく。まづと
り。身。もくろぐ。だん。弱。や。ど。ご。で。り。まく
る。ア。ホ。妻。経。サ。ヘ。身。す。買。て。か。ト。ど。も。や。
別。今。晚。ヘ。身。が。ち。好。女。布。清。妃。も。因。す。ト。や。ヤ。
ひ。ぞ。う。げ。よ。あ。ん。づ。ふ。か。く。妻。す。づ。ら。ゆ。げ。て。お。づ
り。ア。イ
お。づ。く。身。も。不。對。と。失。れ。ト。や。う。す。も。う。

あつアリがトナリヌ。おもへざるも退屈えく
うち。トヨシのあへきりづれやまうきよ。かくへえよ。
女のあんきのよつれて。ミタサ
モミタサのありまへ葉は
せく。モウちもア遠えん出だ力ぢのドド。がりとて西にと
あらそくると。もあくがまのトマモトマモ
リのむ。あれがめのどアは助すけひひきさんせ。
まきふさんまきふさんのくらの軽かるい。さんとくまくとく
ヨリヤアゆくまま塩しお年としのぐ好好きだら。まく
ふよぶゆゑのどアあもすりひぢひぢさんせ。
ちうづきの女郎めらうさんぐくよしひばれさん
くわのびやあう。おきふさん肌はだひくよ
きりふさんせ。トとあびとくや。ほほとくひもありう
ちうづき。モテとててまく。ちゆとごく。トヤキ
トとひきを野の。あらとくまへ
アシアシどめ。アシアシへす。今いまどく。トヤキトヤキ
モモうがゆとも。内うち花はなくら咲よひよ多たりうふ。

おのれのやまとあつまがゆふとやんとまの見事
どりよふとふ。下を理とそとく解くゆまと
ちりよそぞれトモヤアおととが跡^モ聟^モさよどる。
トは内みづづるよきとどをも。へおおまくら。うら
りよきとが出来おりやうとふなうるを
ざす。下のえらさん^モも^モアラシ^モナト
死^ミうさん^モと今^モあ^モアラシ^モナト
腰^モ下^モら^モさん^モ下^モの男^モホヤヨウ^モ
ソリヤアちらかう^モの下^モさんようら。下^モご
りとくのえら^モドヤチニ^モかまく^モ下^モ、
のよてち出^モさん^モ。おらのおあま更^モ出^モ
子^モう^モが妹^モドヤチニ^モが下^モ母^モズ^モト^モ下^モ
朝^モでまひ下^モやゑみ^モ下^モリヤウタ^モ下^モ
あく^モが行くとあく^モをも。マア^モあてま^ね
ぎよ^モさん^モは^モ西^モ下^モらさん^モまきさん



病オドヤケニ。おまくらやと食べゆきて
病ぬよ人よもとひなさんへ。ものとく
あらうとまごくせじり。まさんと。今
月のまかよ月アトヤコハタモトダウ
ヒトマツツシムラさんへあくわから
ちうよんモー^院モドウル。ぢち
がさくねはう。うちへど。下の山ノゾブ
おも橋トヤコハヌ一^間えり。あくわから
まくす。駆にどく夜へえむと。國
とつゑみみ水^快とほれ。屏風とく。ハテモ
御^コ多モあるかの。ト^ままくらふを。^寝キテ
ほり。おええが死^ままん。トトトヤガ
おんきん^レこの。ドヤラ^ス。トカ人て。え
寝へりききまん。モトモ。私^は。おちく死
まさん^レ。

りまさんと見て船で死をうへ
ざわれども。ほひ布を磨さんと名の
てかく。おまわりのふきいふみさ。
在所よりもひつきさんとス人があつわらぐ
が。瘻と病くらの筋をうめよらぐ
暮までじやけ。がぞれんと人があつよらづき
男を三んさまとしろくとゆ代。そのほけと
えりがりてヨリシテ。余が乍まへて音きうて
死をうんとくふす。そぞくくふがれが聲うて
笑てゆきがりてすまいあんざめのうりのとせぬ
あやアがるトモトモうふよとびまばづ。六
張りきとハ。今夜アがせまふやまむれ。喫びく
このゆのひやうとくとめ。駄がまんごともと
めうくとあくとぞううやアがる。ナヤまく
がまくも。そんみて紙ぬうりりたむつとが。今
ふうせおれゆく。是が足をえゆつよつて駄乃

かうりうともいはくとおどあらうち。まことへのめぐらさをもきく。
さまであるまことにまじめにまじめに。まことへりものうちみがさがとの
うまでかるとのうむふをいざりてゐればとあるをあふま
まげんとあせせばやまとももあらつきくるよままでかるをあふも
ぢんくまき。あふ不そつまくまえとえ。とめうちみがさひびゆうぶ
ひをすいとおうしもひびくともまくやのむひちづくもと。がくくとま
ゆるそればかりあひの出るとあらむるこめされば。ばうちよとまくめりき
よびんやねのあ。ごとふりくよあとこくわうとくわうとくわうとく
かくまとあれば。ごときのむとくらうとのあ。あと
まつまつまつはははははははははははははははははははははははははは

かくもとあれば。ごくまのをくらうとのあへと。ヨリア
すすきよはけとくふどやさんとおよそとめちゆげ
人のをくへてかくへてとどく。アリトナ。船乃
づきあせのやう風がきく。アリトナ。船乃
きみ。よなえものやうふな。アリトナ。
歩く。よかくもねじもの。アリトナ。
トヤケニ。ホニニ。がくくと螺の貝。アリトナ。
少へく。船が歩くとよアリヤ。たまくねだらう
ともそこ出せばひいとよアリヤ。ちどり

長たまうご。あくびが強く。サアりふうトありひまうて
とううとまうる。手^ハぐんうつせみ風^カよめくこ^モ
笛^{フル}を吹きあはれうる。さよでもむかへ女^{ヒメ}やア縁^{えん}がうすと^スす。りちつと
のあご。手^ハ平^{タマ}をひげざよあまうる。残^リねん^ル
ものうちコレヌなせく^トたりとく人形^{ヒトヅム}の^ハ強^ク
ぎよくあご^ハうんぢうか。叶^{ハシメ}人形^{ヒトヅム}と^スく
まやアがつと。肩^{ヨコ}は庸^{アラハ}園^イのあいざよ入^ルとくあれ
がくと。あんまりりり^ハすれか。身^ハう掛けの経^ハ貨^ハ
アナ^ハけりくすみ^ハ一^ハかく^ハそくよとんざ
ともう男^ハト^ハまき^ハまちうれ^ハ笑^ハ食^ハま^ハく^ハう^ハく^ハ
わらふ^ハうゆ^ハと^ハわら^ハき^ハあまふ^ハち^ハと^ハう^ハく^ハあ^ハも^ハの^ハの^ハと^ハ
ち^ハて^ハかう^ハと^ハ。又^ハう^ハユ^ハあ^ハく^ハかう^ハま^ハま^ハま^ハう^ハお^ハ出^ハこ^ハ
あ^ハセ^ハら^ハま^ハち^ハ表^ハわ^ハの^ハ。ウナ^ハる^ハ葉^ハ合^ハ「モシ^ハ」ち^ハも^ハの^ハ
あ^ハれ^ハア^ハあ^ハふ^ハり^ハて^ハま^ハう^ハと^ハ。大^ハあ^ハく^ハよ^ハ
それ^ハあ^ハう^ハ居^ハ。「おまんざ^ハのり^ハト^ハド^ハヤ
まんぢう^ハやヘリ^ハゆり^ハこ^ハう^ハな。そ^トやまう^ハ
よま^ハく^ハまう^ハゆる^ハと^ハふ^ハま^ハ。」^ハリヤ面^ハ

備後阿伏兎
海潮山風景

鶴人八
夷
久
刈
木
舟

かき舟
さくら
木
の
舟

十日吉



い事もなむ アノ ちきのものひくふ。アノ

大阪

吾のぶゑとく洋列のありをいぢゆまほじや

リス アノ バイヤリムとものあるあらきものと

ゆきまからう。石見ゆきのうえとくらうと。ア

リス。アトおえり。アムミイカ。アリキナ

アリス。アリスカ。アリギ一トヨウニハ。アリス

アリス。アリスカ。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

アリス。アリス。アリス。アリス。アリス。

上ヤ

えんどうやや。うらうやよみ云妻めがくら
へえくゑん 飛 ヤアゆべのゞぐ。コレほんさん。おぐ
のあいかこと。おひとがあうりのが。むづつ大坂
へこそれゑく。えいへトモヤハニキ せんべかの小さざと
せんちくせんく えきえき て、さすのすけへまくらに
えのあざくようのまくらをすく。よく湯あぐうのまくらに
えく行く ヨシ イ風がおうよふうニ。どよてりん。は道苗
ドヤあう。おもろひよぞうあくとゑん。サア便
のくとあるくとみみさんせ 水 バイアドーフヘリカ
ざくめい 大坂 そあげきく。おまくへりまの
まくまくのまくらもあく 良 まくまく モキ 撲浪さんとや。
おもくの男よ。りひかの丸やうこの下うんでや。
うちあひまくまくびきのまくらもあくが
トへどる。おハ今の大えせを 水 えでよ。おどどと
り。ヨリヤアよ。せんきまくりく。おハテウキも
ごんきやよ。おへうらも。おうりうよ。おコサ
それきのうて。たまるすのう。おぞく。アキんぢや

りひてまくとぞえみまんせ「ノイヤく」
めぞよしとえんすまぐ。ほもかもあひで居る
ま死のアヌルト目やまごとくせす。もあの人波とく
參辰と「モエイ」そのづれのが。どらむとくせ
ス。とびつる。大々
「ひきぬ」
「そよぐ。おまく今氣に。けむとくせ
じやとおりよ。おでりんで。おまくとくせ
じやまく。一あまくすりひまくとくせ
てまくのびく。うが大切まくのじやを。とくせ
ぐく。蒲團のゆびよおりとくせ。ゆのさうと
ぬとんとくせ。まくとくせ。とくせ。とくせ
うららのじたのが。うがまくと。おうよくとくせ
ケニ。とくかくよばく。ちくとくせ。とくせ。とくせ
ゆよる。あとよへ。まな太私。せんじう。おうく。とくせ。
ふあり。す。まのとくせ。とくせ。とくせ。とくせ。
えせざれ。ばんせ。せんじう。せんじう。のとくせ。とくせ。
はく形。參。まく。あよ。まく。せんじう。とくせ。とくせ。
まく。よ。うて。まの。まんと。まく。取。とくせ。とくせ。とくせ。
まく。ト。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。
い。金。入。形。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。
まく。まく。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。とくせ。

てごんのトドヤクリ。破櫻ヤ^をミとさんシム
トドヤ。トドモステトドンのトドヤク。コリヤヤム
トドモステトドンの死スミトドニ今
うちトづるのトドヤム。ミサさんムトドニトト
トドモステトドンのトドヤク。トドモステトドンのトドヤク。トドモステトドンのトドヤク。
トドモステトドンのトドヤク。トドモステトドンのトドヤク。

塗立の胡粉をあみ人形も
そろり／＼なくてまゝハの喧騒

此の事は船中もさへ小川の都を見ても
笑ひを堪え難く。やがて風うきを收めよ
船頭ども帆を下りあげ楫を下り車。ば晴れと
こそ、神の御神のかきをまわる遙轆ノ

青葉をまくよみゆき渡津
あらわのうら津 む林のゆづま
かく歌をもさすよ仲りよえり出未訖
かくかくよじまむと
青葉をまくよみゆき渡津

り。まよは海潮山磐臺寺とります。
其庭より廊下の隧道とのどきが海岩の
えよ飯寺の事よりてすゆ。ほほ鼻火へ
掌合の人々と僕はまよ系指しをす。ふの
尾鳴海摩のぞもるゝ。常夜の燈籠
ゆ。飯寺堂よりえりうせび。向良足元又誦
かり。脚も眼も足の骨もかゑれをす。
石垣ひきうちぐら壁の草むしり

光明のことを阿伏鬼観音

きてはひとり。年の八十外ありの。和尚
めにしうが。他の男よりぐやうのあり。そのうり
まみ替ふ。幕苞みどり一弓よりを。官幣の
替ふ。お茶せ。私と清めつ。矢を。紙も。田の弓
とひよひよ。極むちうたひすどりよあくよ。
竹吹島丸龜也。股も玉とてはまく。揆みの瀬戸

もひよとぞ
ひやま　そよとよは
ひやま　堅横島の漁戸のよし
かどものあよとよもあよ　良

宮修参詣藤原上ノ差使

早稻田大学図書館

011688991791